

船舶事故調査報告書

平成23年7月21日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 石川 敏 行
 委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成23年1月14日 01時50分ごろ
発生場所	北海道苫小牧市苫小牧港南南西方沖 苫小牧港東外防波堤灯台から真方位209° 3.6海里付近 （概位 北緯42° 33.7′ 東経141° 34.9′）
事故調査の経過	平成23年1月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第三十八錦星丸、7.3トン HK2-21674（漁船登録番号）、個人所有 13.40m (Lr) × 3.38m × 1.15m、FRP ディーゼル機関、450kW（漁船法馬力数）、平成3年11月8日
乗組員等に関する情報	船長 男性 58歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和54年8月31日 免許証交付日 平成18年10月5日 （平成24年8月27日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	機関及び電気系統の濡損
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員2人が乗り組み、すけとうだらの刺し網漁に従事した後、苫小牧港南南西方沖の漁場を船首が船尾よりも沈んだ状態で発進し、同港に向け、約8ノットの速力で北東進中、浸水により船首部が沈下を始め、平成23年1月14日01時50分ごろ、苫小牧港南南西方沖において、左舷側から転覆した。 本船の乗組員は、同航中の僚船に移乗し、本船は、苫小牧港へえい航された。
気象・海象	気象：天気 雪、風向 北北東、風力 2、視界 良好 海象：波高 約0.2m
その他の事項	本船は、漁場発進時、仕掛けた刺し網25反（1反7～8kg）に掛かったままの漁獲物約9.5tを前部甲板下の魚倉と同甲板上に、交換用刺し網4反を後部甲板上にそれぞれ積載していた。 本事故当時の漁獲量は、通常よりも多かった。 本船の満載貨物重量は、約9tであった。 本船は、船首部及び船尾部の左舷側ブルワーク下部（甲板上高さ約20

	<p>cmのところ)に約30cm四方のホッキ貝の稚貝放流用の開口部が設けられており、同開口部は、木製さし板が差し込まれているだけで水密構造にはなっていないかった。</p> <p>本船の船首倉庫出入口は、コーミングの高さが甲板上約15cmであり、水密構造にはなっていないかった。</p> <p>本船の甲板は、甲板上高さ約15cmのところ木製の敷板が敷き詰められていた。</p> <p>本船は、高さ約6cm長さ約18cmの甲板排水口が両舷に8個設置されていた。</p> <p>本船は、漁場発進後しばらくして海水が前部甲板に滞留し、甲板上の敷板が浮遊し始めた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、苫小牧港南南西方沖を同港に向けて航行中、漁獲物が掛かった刺し網を前部甲板下の魚倉と同甲板上に積載して船首部の乾舷が減少していたことから、船首部の左舷側ブルワークの開口部や甲板排水口から海水が入り、前部甲板に滞留するとともに、船首倉庫等に浸水して転覆したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、苫小牧港南南西方沖を同港に向けて航行中、漁獲物等の積載により船首部の乾舷が減少していたため、船内に浸水して転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>	
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正な乾舷の保持 	